

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 69

2013年9月17日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>からもご覧頂けます。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「センサエキスポジャパン2013・センサネットワーク技術展」に出展します
2. 「静岡大学食品・生物産業創出拠点 第33回研究会
しみず新事業創出研究会 合同研究会」のご案内
3. 静岡大学・読売新聞連続市民講座2013
「グローバル化時代を生きる(全5回)」のご案内
4. 「技術・マーケティング相談会in焼津」のご案内
5. 静岡大学・静岡信用金庫 産学連携協定締結記念セミナー
「経営実践基礎講座」のご案内
6. 静岡大学・中日新聞連携講座
「世界文化遺産 富士山を考える(全5回)」のご案内
7. 「フーズサイエンスフォーラム」のご案内
8. 「サイエンスカフェin 静岡」のご案内
9. 「静岡大学との連携による新技術説明会」を開催します
10. 「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2013」のご案内

※問合せ先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更して
います。メール送信の際は[at]を@に変更してください。

-
1. 「センサエキスポジャパン2013／SENSOR EXPO JAPAN 2013
センサネットワーク技術展／SENSOR NETWORK TECHNOLOGY EXPO」に出展します

日時 2013年9月25日(水)～9月27日(金) 10:00～17:00
会場 東京ビッグサイト[東京国際展示場]
主催 フジサンケイ ビジネスアイ(日本工業新聞社)

静岡大学の発表・展示

- 「インピーダンス変化型センサの無電源無線化に関する研究」
近藤 淳 (創造科学技術大学院 教授)
 - 「高性能CMOSセンサを用いた低ノイズマルチアパーチャカメラ」
香川 景一郎 (電子工学研究所 准教授)
- ※出展ブース名は「静岡技術移転合同会社(静岡TT0)」です。

参加 無料

詳細 <http://www.sensorexpojapan.com/>

静岡大学の問合せ先 静岡大学イノベーション社会連携推進機構
TEL 053-478-1718 FAX 053-478-1711
E-mail [invjp11\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:invjp11[at]cjr.shizuoka.ac.jp)

-
2. 「静岡大学食品・生物産業創出拠点 第33回研究会
しみず新事業創出研究会 合同研究会」のご案内

日時 2013年9月27日(金) 13:30～16:40
場所 アクトシティ浜松 コンgressセンター 52-54会議室
主催 静岡大学食品・生物産業創出拠点

共催 しみず新事業創出研究会・駿河湾地域事業化プロジェクト
後援 公益財団法人 静岡県産業振興財団
公益財団法人 浜松イノベーション推進機構 (予定)
公益社団法人 化学工学会 東海支部 静岡化学工学懇話会

講演

主題：D-アミノ酸の新機能とライフサイエンスへの展開

①「真核生物における遊離D-アスパラギン酸とその関連化合物の代謝酵素」
13:35~14:20

長岡技術科学大学 環境・建設系 環境システム工学 環境生物化学研究室
教授 解良 芳夫 氏

②「皮膚中遊離D-アミノ酸の存在及び機能の発見と、新たな抗老化アプローチの可能性」

14:20~15:05

(株)資生堂 化粧品基盤研究センター 薬剤開発グループ
研究員 東條 洋介 氏

③「D-アミノ酸分析技術の紹介と機能解析への展開」15:20~16:05

味の素(株) イノベーション研究所 基盤技術研究所 先端分析研究グループ
研究員 唐川 幸聖 氏

④「感染症バイオフィーム形成のD-アミノ酸による制御」16:05~16:30

静岡大学大学院工学研究科化学バイオ工学専攻
教授 金原 和秀 氏

懇親会 17:00~18:30

オークラアクトシティホテル浜松 (45F スカイバンケット)

研究会参加費 会員・共催・後援団体会員及び学生…無料
会員外…1,000円

懇親会参加費 会員・共催団体…3,000円
会員外…5,000円

※参加費は、当日、受付にてお願いします。

申込期日 9月18日(水)

参加申込み・問い合わせ先 静岡大学食品・生物産業創出拠点 事務局
〒422-8529静岡市駿河区大谷836
TEL: 054-238-4631 FAX: 054-238-3018

3. 静岡大学・読売新聞連続市民講座2013

「グローバル化時代を生きる(全5回)」のご案内

グローバル化の進展は、世界的な人の移動を加速させ、家族やコミュニケーションのあり方をはじめ、大きな社会構造の変化をもたらしました。これからどのような社会を構築していけばいいのか、さまざまな側面から展望します。

第2回「マントル掘削～地球規模の物質循環を探る～」

講師：道林 克禎 (静岡大学大学院理学研究科教授/固体地球科学)

地球のマントルは熱循環過程の要であり、その実体を解明することは地球表層の環境変動を理解する上でも重要です。現在計画されているマントル掘削を紹介しながら地球規模の物質大循環を考えます。

日時 2013年9月28日(土) 14:00~16:00

会場 あざれあ(静岡県男女共同参画センター) 6F大ホール

主催 静岡大学イノベーション社会連携推進機構、読売新聞東京本社静岡支局

参加 無料

定員 各回350人 ※4回以上ご参加の方には修了証を発行します。

詳細 <http://www.lc.shizuoka.ac.jp/event001202.html>

申込先 読売新聞静岡支局 静大市民講座係
TEL 054-252-0171 FAX 054-252-0310
E-mail shizuoka[at]yomiuri.com

4. 「技術・マーケティング相談会in焼津」のご案内

日時 2013年10月2日(水) 10:00~16:00
会場 焼津市役所 会議室棟 1階 101号室(焼津市本町二丁目16番32号)
※お車で越しの際には、焼津市役所の駐車場をご利用ください。

内容

1. 技術相談会

静岡大学、静岡県立大学、東海大学の産学連携担当者及び
県試験研究機関による個別相談です。

○静岡大学 ~食品・バイオサイエンス・健康~

イノベーション社会連携推進機構 コーディネーター 橋詰俊彦氏

○静岡県立大学 ~機能性食品・健康食品・食品の加工~

産学官連携コーディネーター 柴田春一氏

○東海大学 ~水産生物・水産食品の機能性~

海洋学部 教授 齋藤寛氏

○県試験研究機関 ~食品関連分野全般~

工業技術研究所、水産技術研究所等

2. マーケティング相談会

マーケティング専門家による個別相談です。

○有限会社ヴィ・ダブリュ・ストーク 代表取締役 望月聖司氏

○株式会社販売促進研究所 代表取締役 杉山浩氏

※ いずれの相談会も無料です。ただし、事前予約制となっております。

※ 技術相談会は各5社程度、マーケティング相談会は10社程度の受付です。

URL <http://www.city.yaizu.lg.jp/g05-005/support/foods-science.html>

申込み方法 申込書及び該当する事前相談シートを記入の上、下記まで
FAXまたはメールにて送信してください。

申込・問合せ (公財)静岡県産業振興財団フーズ・サイエンスセンター
TEL : 054-254-4513 FAX : 054-253-0019
E-mail : newfoods[at]ric-shizuoka.or.jp

5. 静岡大学・静岡信用金庫 産学連携協定締結記念セミナー 「経営実践基礎講座」のご案内

静岡大学は静岡信用金庫との産学連携協定締結を記念して、下記のとおり共催
にて「経営実践基礎講座」を開催いたします。

経営環境が大きく変化している中、多くの中小企業が直面している課題解決に
向け、経営改善の実践的な方法論を①財務、②顧客創造、③商品開発、④業務改善
の切り口から実践的に学びます。

日時 第1回 10月10日(木) 18時30分~20時30分
「勝つためのプレゼンテーション」
第2回 10月24日(木) 18時30分~20時30分
「受注をとる交渉術」
第3回 11月7日(木) 18時30分~20時30分
「販路・商品開発のマーケティング」
第4回 11月21日(木) 18時30分~20時30分
「ITを活用した業務改善の進め方」
第5回 12月5日(木) 18時30分~20時30分
「金融機関がチェックする財務諸表のポイント」

会場 B-nest (静岡市産学交流センター)
主催 静岡信用金庫、静岡大学
運営 一般社団法人 システムコラボ・マネジメント
<http://syscolla.or.jp> (静岡大学発ベンチャー企業)
受講料 5,000円 (全5回分)
申込み 下記のURLからダウンロードして印刷いただき、申し込みにご記入のうえFAXで送付ください。
<http://www.syscolla.or.jp/session&news.html>

6. 静岡大学・中日新聞連携講座 「世界文化遺産 富士山を考える (全5回)」のご案内

今年度のテーマは、世界文化遺産「富士山 - 信仰の対象と芸術の源泉」として認定された富士山をめぐる探求です。富士山の自然、環境、景観を様々な分野から詳しく検討し、富士山をめぐる信仰・芸術の成立背景と意義を考えます。

第1回「富士山 大自然への道案内」
講師：小山真人 (静岡大学教育学部・防災総合センター教授)

日時 2013年10月12日 (土) 14:00~16:00
会場 静岡大学浜松キャンパス (工学部5号館システム工学科棟2階21教室)
主催 静岡大学イノベーション社会連携推進機構、中日新聞東海本社
参加 無料
定員 各回100人 ※4回以上ご参加の方には修了証を発行します。
申込先 静岡大学イノベーション社会連携推進機構 連携講座係
ウェブサイト <http://Lc.shizuoka.ac.jp/>
FAX 054-238-4295
E-mail LLC@entry.Lc.shizuoka.ac.jp
葉書 〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

7. 「フーズサイエンスフォーラム」のご案内

日時 2013年10月22日 (火) 14:00~19:00
会場 A X I S かつらぎ 2階多目的ホール (伊豆の国市古奈255)
内容

- 開会挨拶 (14:00~14:10)
- 基調講演 (14:10~15:10)
『機能性食品開発の現状と将来展望』
名古屋大学名誉教授、愛知学院大学心身科学部長 教授 大澤俊彦氏
- プロジェクトの取組 (15:10~16:05)
『フーズ・サイエンスヒルズプロジェクト戦略計画について』
(公財) 静岡県産業振興財団フーズ・サイエンスセンター長
静岡県立大学学長 木苗直秀氏
『フーズ・サイエンスヒルズプロジェクト実施事業について』
(公財) 静岡県産業振興財団フーズ・サイエンスセンター
事業化コーディネータ 中久喜輝夫氏
- 企業の取組 (16:15~16:55)
『超小型チーズ製造機「小バットくん」の製造及び販路開拓の現状について』
大生機設 (株) 代表取締役 尾形 昭生 氏
「静岡牧之原茶『白葉美人』の商品化と今後」
ハイナン農業協同組合 茶業部副部長 三浦 三男 氏
- 商工会の取組 (16:55~17:15)
『IZU食彩トレイドフェアの取組』

IZU食彩トレイドフェア実行委員会

○交流会 (17:30~19:00)

※食品企業による試食会も行います。

※交流会お申込み後のキャンセルは、10/18(金)までにご連絡ください。

参加費 講演会は無料、交流会は会費3,000円です。

申込方法 募集案内の申込欄に必要事項に記入の上、FAX又はメールにてご返送ください。

申込締切日 平成25年10月15日(水)必着

定員 講演会：150名、交流会：60名

※定員になり次第、締め切らせていただきます。お早目に申し込みください。

URL <http://www2.ric-shizuoka.or.jp/fsh/news/130910.html>

申込・問合せ先 静岡県新産業集積課

電話：054-221-3588

FAX：054-221-3615

E-mail：trc[at]pref.shizuoka.lg.jp

8. 「サイエンスカフェin 静岡」ご案内

サイエンスの最前線をわかりやすくお話しします。

コーヒーとお菓子を用意してお待ちしております。お気軽にお越し下さい。

日時 第80話「老化と寿命はどこからやってくるのか？」

10月31日(木) 静岡大学理学部生物科学科 丑丸敬史

第81話「形の不思議」

11月21日(木) 静岡大学理学部物理学科 佐藤信一

第82話「同位体のささやきから知る自然」

12月12日(木) 静岡大学理学部地球科学科 和田秀樹

第83話「光でみる一顕微鏡のはなし」

1月30日(木) 静岡大学工学部機械工学科・電子工学研究所 川田善正

会場 B-nest静岡市産学交流センター ペガサートビル6階

時間 18:00~19:30 (開場17:00)

主催 静岡大学理学部

参加費 無料

申込み 不要

定員 150名(先着順) ※満席に達した場合、ご入場いただけません。

詳細 <http://www.sci.shizuoka.ac.jp/sciencecafe/index.html>

問合せ先 静岡大学理学部物理学科 阪東一毅

TEL 054-238-4745 E-mail sci-cafe[at]ipc.shizuoka.ac.jp

9. 「静岡大学との連携による新技術説明会」を開催します

日時 2013年11月1日(金)

会場 JST東京本部別館ホール(東京・市ヶ谷)

主催 静岡大学、(独)科学技術振興機構

内容

1. 「小型高感度低ノイズ高ダイナミックレンジマルチアパーチャカメラ」

静岡大学 電子工学研究所 准教授 香川 景一郎

2. 「21世紀のクリーン燃料」ジメチルエーテルを経済的に製造する

触媒に関する研究・開発

静岡大学 工学研究科 化学バイオ工学専攻 講師 武石 薫

3. 「弾性表面波素子とインピーダンス変化型センサを組み合わせた

受動型物理量計測システム」

静岡大学 創造科学技術大学院 教授 近藤 淳

4. 「超分子ヒドロゲルによるタンパク質電気泳動法」
静岡大学 理学研究科 化学専攻 准教授 山中 正道
5. 「新規微生物燃料電池に向けた蓄放電部材の開発」
静岡大学 工学研究科 化学バイオ工学専攻 教授 二又 裕之

参加費 無料
定員 100名
詳細/申込 <http://jstshingi.jp/shizuoka/2013/index.html>
問合せ 静岡大学イノベーション社会連携推進機構
TEL 053-478-1414 E-mail ip-office[at]cjr.shizuoka.ac.jp

10. 「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2013」ご案内

静岡県東部地域の高等教育機関が一堂に集まり、各機関の日頃の研究・開発・ものづくりなどの研究成果の発表や、社会貢献・ボランティア活動などの取り組みを広く紹介します。

どなたでも参加いただけますので、どうぞお越しください。

日時 2013年11月25日（月）13:00~16:00
会場 キラメッセぬまづ（沼津駅徒歩3分）
主催 富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2013実行委員会
後援 東海イノベーションネットワーク（東海iNET）ほか
参加費 無料
問合せ 富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2013実行委員会事務局
静岡県立大学環境科学研究所 谷 晃
TEL 054-264-5788 E-mail atani[at]u-shizuoka-ken.ac.jp

《 みんなのコラム -63- 》

記：電子工学研究所 教授 鈴木久男

私たちの研究室（私と脇谷教授および坂元助教）では、気相法と液相法によるナノマテリアルすなわち薄膜やナノ粒子のプロセッシングと応用について研究しています。静岡大学赴任前の豊田工業大学では、大学院こそ材料系でしたが学部は機械システム工学科だったので、当時ブームとなっていた窒化ケイ素などの構造用セラミックスや低膨張セラミックスのプロセッシングも行っていました。

一般に、「プロセッシング」という単語は「加工」を意味すると思われがちですが、無機多結晶（セラミックス）の世界ではプロセッシングは非常に重要な意味を持ちます。そして、原料となる粉体合成から造粒-成形および焼結の方法とその背後に含まれる科学や技術を包括したものを「プロセッシング」と呼んでいます。これは、全く同じ原料から同じセラミックスを作製した場合でも、プロセッシング次第で基本的には微構造が変わり、結果としてその性質までも大きく変化するからです。

そして静岡大学では、微構造制御による物性の制御を実現するStructure Induced Giant Nature (SIGN) をスローガンに、Si基板上強誘電体薄膜のストレスエンジニアリングを実現しました。この成果の一部は、高性能圧電体薄膜デバイスへの応用が期待されています。この様なコンセプトに基づき、一貫して原料段階から目的のセラミックス（現在の研究室では、薄膜やナノ粒子）の特性を制御して優れた材料を作製する研究を続けてきました。その結果、共同研究やNEDOなどのプロジェクトを通じた産学連携を続けることができました。産学連携を実施する中で、20年前に静岡大学に赴任した当時はキャンパス内でもほとんどなかった分析装置（高性能X線回折装置、高性能走査型プローブ顕微鏡、走査型電子顕微鏡、電気化学測定装置など）を研究室でそろえることができました。

材料科学の研究にとって、優れたアイデアや手法とそれを実証する分析装置は

不可欠です。私が静岡大学工学部に赴任した当時は分析装置がほとんどなく、日々の研究に大変不自由をした記憶があります。しかし現在では、共同利用機器センターも発足して研究環境は20年前とは見違えるようです。さらに、私は今年度から電子工学研究所に所属が替わりましたが、電子工学研究所は光研究拠点に採択され、共同利用も採択されました。

今後益々、電子工学研究所や工学研究科の発展が期待され、産学連携が加速されることと思います。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

<< 編集後記 >>

静岡大学は、平成25年度の文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」に採択され、現在、教育学部を中心に、「静岡大学アートマネジメント力育成事業」を実施しています。

この事業では、静岡大学が中心となり、静岡県舞台芸術センター（SPAC）、静岡県立美術館、静岡市美術館、静岡音楽館AOIと連携し、地域の文化施設等の職員を主対象として、学生・院生、そして市民に開かれた、実践的な授業を展開しています。

このプロジェクトでは、開発したカリキュラムを広く情報提供することにより、日本全体の文化振興の向上と充実に資することを目指しています。

混沌とした今の時代、静大発のアートの力が地域の新たな原動力になることが期待されます。

* - *

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・配信中止のご連絡は、[sangakukoho5\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp) までお願いします。（↑送付の際は[at]を@に変更してください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション社会連携推進機構

編集：原典子

発行責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1

TEL 053-478-1414

URL <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

* - *

Copyright (c) 2008-2013

Organization for Innovation and Social Collaboration,
Shizuoka University. All rights reserved